

# 2022年度 研修会ガイドブック



tokyo-msw.com

# 2022

## 2022年度 研修会ガイドブック

2022年4月1日発行



〒170-0005  
東京都豊島区南大塚3丁目43-11  
福祉財団ビル5階

TEL 03-5944-8912

FAX 03-5944-9745



tokyo-msw.com

新人研修

グループスーパービジョンA・B・C

スーパーバイザー養成講座

連続講座

## 目次

2022年度の研修会一覧	1
新人研修の概要	2
新人研修シラバス	3
グループスーパービジョンA・B・Cの概要	4
グループスーパービジョンAのシラバス	5
グループスーパービジョンBのシラバス	6
グループスーパービジョンCのシラバス	7
スーパーバイザー養成講座の概要とシラバス	8
研修会の申込方法	9

### オンライン研修の注意事項

- ・2022年度の研修は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、原則Zoomを使用したオンライン研修（以下、研修）となりますが、今後の社会状況によっては、研修の受講方法が変わる可能性もあります。
- ・本注意事項に違反する行為がわかった場合、協会として受講の取り消しや認定ポイントの取り消し等の対応を行う場合があります。なお、本注意事項を遵守しなかったことが原因で発生した問題については、協会はその責任は負いません。
- ・研修を受講するには、パソコンやタブレット、スマートフォンといったデバイス、ウェブカメラ、マイク、インターネットの接続などが必要ですので、各自で準備してください。協会から受講生に貸し出すことはありません。
- ・研修の受講に際して発生した通信料は、受講生の負担となります。
- ・インターネットやスマートフォンなどの契約によっては、多大な通信料が発生してしまう可能性があります。ご自身の契約内容を十分にご確認ください。
- ・スマートフォンでの受講も可能ですが、画面の視認性や操作性の観点から、パソコンやタブレットでの受講を推奨します。
- ・カメラやマイク、スピーカーが内蔵されていないデバイスを使用している場合は、外付けのものを各自で準備してください。
- ・Zoomなどのアプリをインストールする際は、課金契約を確認することをお勧めします。
- ・OSやアプリのアップデートは欠かさずに行なうことをお勧めします。通常、最新版の方が、安定性や安全性が高くなります。
- ・セキュリティ上、フリーWi-Fiは利用しないでください。
- ・外部に音が漏れることによる個人情報漏洩を防ぐため、個室での受講や、イヤホンやヘッドフォンを使用してください。
- ・悪意ある第三者からの妨害行為を防ぐため、オンライン研修で使うミーティングIDやパスワードを他人に伝えることや、SNSなどに掲載することを禁止します。
- ・研修を録画・録音すること及び研修内容をSNSなどに掲載することを禁止します。
- ・Zoomの操作によっては、ご自身の使用しているデバイスの画面が、画面共有されてしまう可能性があります。第三者に見られたくないような情報（ネットバンク等）は、ウィンドウを閉じておく、パスワードによるロックをかける、デスクトップからアイコンを隠すなどの対策をしてください。
- ・研修中は、ウェブカメラをオンにして、ご自身が映るようにしてください。また、その際、室内の背景も映ります。気になる方は、背景の変更をご自身で設定してください。

## 2022年度の研修会一覧

以下の研修会は、当協会の会員に受講資格がありますが、スーパーバイザー養成講座と連続講座は、非会員のソーシャルワーカーも申し込みが可能です。

ただし、会費未納者は受講できませんので、会費を引き落としにされていない会員は、会費納入後にお申し込みください。学生会員は受講できません。

研修名・定員	講師	認定医療ソーシャルワーカーポイント	申込要件
新人研修 60名	協会依頼の講師	特別講義 16 役割理解 10(予定) 個別援助技術 10(予定)	当協会会員 一部、東京都受託事業のため、応募者多数の場合、都内の正会員を優先
グループ スーパービジョンA 9名	渡部律子先生 日本女子大学名誉教授	33(予定)	当協会会員 受講者は、成果編集として全ての研修終了後に報告書を提出 東京都発行の冊子「医療ソーシャルワークの解決技法」に掲載予定
グループ スーパービジョンB 9名	石井三智子先生	26	
グループ スーパービジョンC 9名	佐藤俊一先生 NPO法人スピリチュアルケア研究会ちば理事長 日本ソーシャルワーク学会理事	26	
スーパーバイザー 養成講座 20名程度	福山和女先生 ルーテル学院大学名誉教授	21	当協会会員 非会員のソーシャルワーカー
連続講座 20名	協会依頼の講師		当協会会員 非会員のソーシャルワーカー

※連続講座は、今年度後半に開催する予定です。詳細は、開催時期が近くなりましたら、改めてご案内します。

※開催日時や開催時間については、各受講案内をご覧になった上で、お申し込みください。

※認定医療ソーシャルワーカーのポイントは、該当講座の9割以上の出席で発行となります。

### 研修会の留意点

- ・一つのグループに偏りがある場合は、教育部で調整させていただくことがあります。予めご了承ください。
- ・参加者が定員に満たない場合は、追加募集を行うこともあります。
- ・多くの会員が受講できるよう、グループスーパービジョンに限り1人1講座の申し込みとさせていただきます。
- ・参加した講座で予定外の講義や合宿などを行う場合の費用は、全て自己負担となります。
- ・途中、講師などの事情により、講師や会場・日時の変更をする場合があります。
- ・上記の他に、「(夜間)講座」を年2回計画しています。

## ■ 新人研修の概要

新人研修は内容としては特別講義・役割理解・個別援助技術の3部構成です。特別講義6回、役割理解を半日×2回、個別援助技術を半日×2回の全10回開催を予定しています。

- ・ **特別講義**：新人ソーシャルワーカーとして知っておくべき内容を、様々な視点と領域から各回のテーマを設定しています。
- ・ **役割理解**：組織の中でのソーシャルワーカーの位置づけや果たすべき役割、関係機関との協働などを中心に、組織の中で役立つ基本的内容を講義します。
- ・ **個別援助技術**：日常の相談業務を振り返りながら、面接をいかにに行い、どのように進めていけば良いのか、相談者の抱えている本当の問題を発見し、理解するためにどうしたら良いのか…といった、日常の相談業務に活用できる内容を講義します。

講師・日時・会場	次ページの新人研修シラバスを参照
対象者	ソーシャルワーカーの実務経験3年未満の当協会員 ※未入会の方は、研修申込と共に当協会ホームページを確認の上、入会申込を行ってください。
定員	60名
費用	17,000円(税込、一部東京都受託事業)
申込締切	2022/6/17(金)
申込方法	P9の「研修会の申込方法」を確認し、当協会ホームページよりお申し込みください。 なお、応募者多数の場合は、抽選となります。 ※抽選の場合は、担当者から申込者へご連絡させていただきます。 ※ホームページにアクセスできず、お申し込みが難しい場合は、当協会事務局までご連絡ください。
支払手順	1. 申込締切後、受講決定者には受講決定通知と振込用紙等を送付します。 2. 初回研修の1週間前までに受講費用の振り込みを行ってください。 3. 年会費も振り込みを行った上でご参加ください。 ※振り込みを確認できない場合は、個別にご連絡をさせていただくこともあります。

### Zoom 接続テスト

下記日時に Zoom の接続テストを行います。Zoom の利用に不安があり希望される受講生は、ご参加ください。なお、Zoom の利用経験があり、不安のない場合は、参加しなくても大丈夫です。

**日時：2022/7/1(金) 19時**から20分程度  
※詳細は改めてご案内します。

### 新人研修に関するお問い合わせ先

下記までメールでお問い合わせください。

教育部担当：原田 剛  
公益財団法人結核予防会 新山手病院  
地域連携課

soudan@shinyamanote.jp

### 昨年度の新入研修受講生の声より

- ・ 経験の浅いうちから記録のあり方について考えることが大切であるかと考えます。記録は書いた者のものではなく、支援対象者のものであることを意識し、いつ誰がどんな場面で読んでも良いような内容と表現を日頃から行うようにします。
- ・ その人の思いをありのままに受け入れ認めてあげること、患者さんの安心する居場所をつくってあげることが自分にもできるのではないかと感じました。患者に寄り添った支援ができるように努めていきたいと思えます。
- ・ 実際に心理テストを受けて、自分の性格や考え方がどのような傾向にあるのかということを知ることができ、注意すべきところについてどのような点が挙げられるのか理解することができました。自己理解を深めることができ、それについて業務に活かしていけると感じました。
- ・ 特にカンファレンスは定期的に行われているものや突発的に行うものもあるため、SWとしての自分の立ち位置が再確認でき良い勉強となった。SWとして客観的にケースを見る大切さも分かったし、中立的な立場に立っているのはSWのため、そこを見失わないように今後の業務に活かしたいと思った。

## ■ 新人研修シラバス

日時	会場	内容	講師	
7/8(金)	19~21時 Zoom	特別講義	① オリエンテーション 自己紹介：この研修で目指すもの	小松美智子先生 武蔵野大学客員教授 女性の暮らしやすさを考える ソーシャルワーク研究会
7/22(金)			② 先輩ソーシャルワーカーからのお話	現任ソーシャルワーカー
8/6(土)	13~17時 集合研修 (予定)	役割理解	役割理解(1)	樋口昌彦先生 至誠会第二病院
8/20(土)			役割理解(2)	仲谷恵美子先生 森山脳神経センター病院
9/2(金)	19~21時 Zoom	特別講義	③ 相談援助職の記録の書き方	八木重紀子先生 福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター アアライ株式会社
10/7(金)			④ ソーシャルワークにおける 人間と生活の理解 ~自己理解と関わらせて~	吉浦 輪先生 東洋大学ライフデザイン学部 生活支援学科教授
11/11(金)			⑤ クライアントと向き合うこととは？ ~サバイバーの方からの話に学ぶ~	山谷佳子先生 聖マリアンナ医科大学 産婦人科学
12/2(金)			⑥ 事例から考える社会保障制度	藤平輝明先生 研修講師・地域活動ボランティア 元東京医科大学病院 MSW
1/28(土)	13~17時 Zoom	個別援助技術	個別援助技術(1)	小松美智子先生 武蔵野大学客員教授 女性の暮らしやすさを考える ソーシャルワーク研究会
2/18(土)			個別援助技術(2) 修了式	

※講師およびその他の都合により日程が変更になる可能性があります。その際はご連絡します。

※役割理解は、集合研修を予定しています。会場は、池袋・新宿近辺の予定です。7月8日の初回オリエンテーションの時間で、会場はお伝えします。ただし、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン研修へ変更する可能性もあります。

※申込後に勤務先、連絡先等の変更をする際は、当協会事務局と担当理事までご連絡ください。

※欠席する場合は担当理事までご連絡ください。

## I グループスーパービジョンA・B・Cの概要

グループスーパービジョンは、東京都の受託事業であるため、受講者には必ず成果編集で事例を提出していただきます。事例は、東京都が『医療ソーシャルワークの解決技法』という冊子にまとめ、都庁都民情報ルームや図書館などに広く配布するため、原稿には配慮が必要です。

そのため、当協会として記載方法を統一しました。記載方法の詳細については、グループスーパービジョンの初回に教育部からご案内しますので、必ず出席してください。

また、事例を提出するにあたっては、基本的にクライアントの承諾を得てください。

講師・日時・会場 及び対象者など	P5～P7を参照
定員	A・B・C各9名
費用	東京都受託事業のため無料
申込締切	2022/5/20(金)
申込方法	P9の「研修会の申込方法」を確認し、当協会ホームページよりお申し込みください。 なお、応募者多数の場合は、先着順かつ初受講者を優先とします。 ※応募者多数の場合は、担当者から申込者へご連絡させていただくこともあります。 ※ホームページにアクセスできず、お申し込みが難しい場合は、当協会事務局までご連絡ください。
事例の提出方法	担当者の指示に従い提出してください。 ※メール添付などの指定があります。
事例の提出期限	基本的に次年度の4月末 ※各研修の状況により変更となる場合もあります。それまでの過程は、スーパーバイザーの指示に従ってください。
注意事項	欠席・遅刻・早退があると、認定医療ソーシャルワーカーのポイント証明書を発行できない場合があります。

※提出された原稿は、お返しいたしません。

※原稿は、冊子の校正を進めるにあたり東京都の担当者により変更・訂正・削除される場合もありますので、ご了承ください。

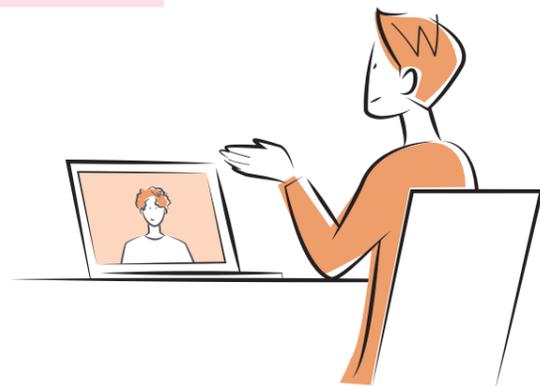
※受講時の事例の配布についても、個人を特定されないよう配慮し、個人情報の保護に努めてください。

### Zoom 接続テスト

下記日時に Zoom の接続テストを行います。Zoom の利用に不安があり希望される受講生は、ご参加ください。なお、Zoom の利用経験があり希望されない場合は、参加不要です。

日時：2022/5/31(火) 19時から20分程度

※詳細は改めてご案内します。



## I グループスーパービジョンAのシラバス

【講師】渡部律子先生(日本女子大学名誉教授)

1976年関西学院大学社会学部、1978年同大学大学院修士課程修了。相談援助職を経て1982年米国ミシガン大学大学院に留学。1983年社会福祉学修士(M.S.W)。1988年心理学修士。1990年哲学博士(Ph.D.専攻:社会福祉学・心理学)。米国でも臨床実践。ニューヨーク州立大学バッファロー校、シカゴ大学社会福祉系大学院で教鞭をとる。1995年関西学院大学助教授。1999年同大学教授。2011年日本女子大学教授。ソーシャルワーカー、ケアマネジャーの研修、グループスーパービジョンなど多数実施(兵庫県介護支援専門員協会での「気づきの事例検討会」)するとともに専門誌でも対人援助職向けの連載執筆(例:「月刊ケアマネジャー」)

日程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(全10回)			11日	9日	13日	10日	8日	12日	10日	14日	4日	11日

時間・曜日	15:00～17:30・第2土曜日 ※2月のみ第1土曜日
会場	Zoom
対象者	ソーシャルワーカーの実務経験3年以上の当協会員
参考文献	スーパービジョンが始まるまでにできれば読んでおいていただきたい本 1. 渡部律子(2011)『高齢者援助における相談面接の理論と実際』第二版、医歯薬出版(P1～P148)序章、1章「援助職者の基礎を形成する視点」2章「援助関係を形成するもの」3章「アセスメント」4章「相談面接業務の全プロセス」5章「面接における言語技術」 2. 渡部律子編著(2007)『基礎から学ぶ気づきの事例検討会』中央法規 ピア・グループ・スーパービジョンの概要(第1章P1～P26)、必要な事前学習や勉強に関する内容(第2章P27～P80)、事例検討会に関してよく出てくる質問やそれに対する回答(第5章P313～P327)など

### 講師のコメント

『新たな視点から実践を見つめなおす』

私は実践現場にいた時、自分が成長している実感を持つことができず悩んだ経験があります。そのような時、スーパービジョンが成長に役立つと実感しました。苦しいながら、自分の経験していることを言葉にすること、固定観念から自由になり異なる視点からケースを捉えなおしてみること、などの重要性に気づきました。クライアントにとって「役立つワーカー」になるためには(ただ言いなりになることではありません)、ソーシャルワーカーが最低限習得しておかなければならない知識・スキル基盤があります。しかし、その基盤はクライアントの多様性にあわせて応用していかなければならず、スーパービジョンは欠かせません。今回、私が実施する予定のグループ・スーパービジョン(以下GS)の方向性を以下に説明します。

#### スーパービジョンの方向性

メンバーの力の活用、民主的な関係性、多面的・統合的アセスメント、建設的な思考の交流、今後使用できる知識・スキル基盤と思考の枠組み提供

1. 私がスーパーバイザー(以後バイザー)役割をとりませんが、全員が積極的に自分の考え、疑問を述べてセッションに参加できる「ピア・グループ(同僚間)・スーパービジョン」要素をとりいれます。(参考文献「気づきの事例検討会」の第3章第3節P89～P288に掲載している「8つの事例」のどれかを読むと、イメージできると思います)
2. 1回目はオリエンテーションで、メンバー同士を知り、その後の進め方の説明、資料の提供等を行います。2回目以降は毎週一人ずつ、私が準備する「ケースの報告様式」に沿って記述された内容をもとに、GSセッションを実施します。
3. バイザーとスーパーバイザー(以後バイザーと呼ぶ)の関係性は、カデューシンたちが提唱している「民主的な関係」を基本にします。
4. 目指しているのは、単にその場での解決策を求めるのではなく、長期的にその方法が使える「多面的・統合的」なアセスメントができ、そこから支援法を導き出せるワーカーの養成です。担当クライアント、クライアントを取り巻く環境(フォーマルなサポート及びインフォーマルなサポート)、援助関係、所属組織で提供できる援助の可能性と限界、等をしっかりと見つめ直し、担当ケースの全体像理解(援助方針決定の際の根拠などを含む)をゴールにします。
5. 上のようなことを実施するのに必要な基盤となる知識・スキルやGS参加の際に必要な「思考の枠組み」などは、必要に応じて資料提供します。

スーパービジョンでどこに焦点を当てて課題を深めていけば良いのか、などを理解するには時間がかかります。そのことを想定して、段階を追って少しずつ学びを深めていきます。少しずつバイザーである私の関与を少なくし、最終的には、受講生のみなさんがピア・グループ・スーパービジョン実施の基本を身に付けられることを目指したいと思っています。皆さんと一緒に学ぶことを楽しみにしています。

### 昨年度の受講生の声より

- ・事例検討の中でさまざまな理論や考え方を学べただけでなく、ストレスの向き合い方やSWの人権など日々の業務の中で悩みがちな問題についても渡部先生からの講義を踏まえて参加メンバーみんなで考えることができたことがとても有意義だった。
- ・毎回自分では思いつかないような発想が出てくる研修で、知識や視野が広がる時間でした。
- ・自身の関わり方の弱点などに気づくことができた。弱みを見せるのは嫌なことかもしれないが、支持的にサポートしてもらっている感じが強くあるため実践でのモチベーションも変わってくることを感じた。
- ・日々の実践への姿勢を変えてくれました。クライアントシステム全体に興味を沸かせると同時に、援助職をしている自分自身にも興味を持ちました。

## グループスーパービジョンBのシラバス

### 講師 石井三智子先生

1956年生まれ。広島県出身。中・高の教員（社会科）を経て、都内医療機関の医療ソーシャルワーカー、企業・在宅医療分野のクリニックのソーシャルワーカーを歴任。南山大学（文化人類学）、上智大学卒業。日本女子大学修士課程修了。兵庫県園芸療法士補。武蔵野大学（旧武蔵野女子大学）の専任教員を経て、現在にいたる。「平和教育」の実践を出発点に、被爆者の人権と証言への関心は、被爆2世としての私の原点でもある。この20年近くのインフォーマルなまたフォーマルな形の現役MSWへのサポートは、ライフワークの一つである。

日程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(全10回)			28日	26日	23日	27日	25日	22日	20日	24日	28日	28日

時間・曜日	19:00～21:00・第4火曜日 ※12月のみ第3火曜日
会場	Zoom
対象者	ソーシャルワーカーの実務経験1年以上5年未満の当協会員
参考文献	1. 川村隆彦著（2021）『ソーシャルワーカーが葛藤を乗り越える10のエッセンス』中央法規 2. 杉山明伸・保正友子他編（2020）『医療ソーシャルワーカーのストレスマネジメント～やりがいをもって仕事をするために～』中央法規 3. 高山俊雄編（2015）『現場で磨くケースワークの技～バイスティックの原則を基に～』現代書館 4. ゴフィア・T・ブトゥリム著、川田誉音訳（1986）『ソーシャルワークとは何か～その本質と機能～』川島書店 5. 伊藤亜紗編（中島岳志・若松英輔他）（2021）『利他とは何か』集英社新書、集英社

### 講師のコメント

#### 〈ソーシャルワークの原点に立ちもどる〉～相手のことをわかろうとする心・技を磨く～

臨床現場で奮闘する若いMSWの方々を応援したいと思い、こうしたグループに関わるようになり、約10年を迎える。故 窪田暁子先生の後を引き継ぎ、緊張感と襟を正した思いで迎えた日々であった。毎年、年間テーマを掲げて、焦点化をはかったが、最終年の今年あらためてソーシャルワークの原点に立ち戻って、自らとメンバーの今、これからの見据えていきたい。

キーワードは、**感性の豊かさ・思考の鍛錬・折れにくい心**である。

入職して3年未満、現場に溶け込む努力と基本ができるまでとなり、次なるステップを考えているときかもしれない。3年以上を経て、後輩指導も出てきて、自らのキャリアの継続や支援の質を考えて悩む時期かもしれない。この約10年の期間の中で、多くは、それぞれのライフイベント（結婚、出産、移動他）を経験しながら、この仕事を継続しておられる。一方で転職（他分野）、離職の方も数名おられる。離職の場合は、こちらの力不足も感じながらその方よりよい未来を察することになる。いずれにしても入職から5年未満は、その職業、職種で、どのような人に出会い、いかなる経験をするかが、その後の人生、キャリアに少なからざる影響を与えていく分岐点にあたるといえるかもしれない。

集まったメンバーのつながりも大切にしたい。対面で集まる難しさは、いましばらく続くかもしれないが、この2年余り、コロナ禍中で、私たちはクライアントや家族に関わるコミュニケーション方法も、苦勞し工夫しながら学んできた。それらをこの小さなグループでも活かさないだろうかと思う。形式として、ピアサポートグループの形で、事例を提供していただき、メンバー複数の眼差しで検討、議論していく形を考えている。提供者にとつての新しい気づき、発見、エンパワメントにつながることを期待したい。それは参加する他のメンバーにも跳ね返ってきてほしい。

「ソーシャルワーク」とは、いったいどういうもののだろうか。まだ完ぺきな答えは見つからない。ある状況に対して、変化を引き起こす総体？ Z・ブトゥリムの著書の中に「人間の苦境の軽減への努力」という言葉がある。当事者や家族の努力もさることながら、共にまたチームともにそれを少しでも担うことができ、苦境の軽減に寄与できる者でありたいと願う。それぞれが自らの苦境、生活と病の関連とその重さを知るが故にである。

文献や資料、研修・研究会などの情報は、適宜紹介します。下記に参考文献を紹介します。すべてそろえる必要はありません。ご自身で必要なものがあれば、購入してください。事例検討が終わり、事例提供してくださった方とは、毎回個人スーパービジョンを実施予定。

### 昨年度を受講生の声より

- 回復期療養病棟でしか勤務したことがなく、急性期病棟で働くSWならではの苦悩や、普段関わる事があまりない在宅のSWの仕事内容について知る事ができ、機能による役割が大きく違うことやそれに伴う視点の違いを感じ勉強になりました。また、経験年数が近いSWの方の研修だった為、苦悩するポイントが似ていた事で共感を得られたり、またそういった仲間にどのような声掛けができるか考えながら参加できたことは、クライアントのニーズに沿うために必要な同じ視点で考えるということに着目できた気がします。同じ職場に同じ経験年数のSWがいなく、苦悩の共感や実践を恥ずかしがらずに公表できる研修はそうないなと思ったので、良いなと思いました。
- 事例を作成し、共有することで自分が感じていた不安全感や悩みを整理するきっかけになりました。また、自分が働く病院とは違う機能で働いている方や、自分が経験したことのない事例や病気に触れることで学びにもなりました。

## グループスーパービジョンCのシラバス

### 講師 佐藤俊一先生（NPO 法人スピリチュアルケア研究会ちば理事長／日本ソーシャルワーク学会理事）

約30年に亘って大学においてソーシャルワーカーを主として、対人支援職の人にかかわる力を身につける教育と研究に従事。現在は、退職して実践力を向上させるための研修として、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、看護職などの対人支援職のスーパービジョン、グループ臨床を行っている。その学問的な基盤は体験を大切にしている現象学であり、目指すことは一人ひとりの生の覚醒である。

日程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(全10回)			23日	28日	25日	22日	27日	24日	22日	26日	23日	23日

時間・曜日	19:00～21:00・第4木曜日
会場	Zoom
対象者	ソーシャルワーカーの実務経験5年以上の当協会員
参考文献	文献の1をテキストとして数回使って学習します。初回には、第1章「ケアを生み出す基礎とは」を読み、印象に残ったこと、わからないことなどを発表できるように準備して臨んでください。 1. 佐藤俊一（2011）『ケアを生み出す力 - 傾聴から対話的關係へ』川島書店 2. 同上（2020）『スピリチュアリティを目覚めさせる - 均質化する社会を現象学から問う』川島書店

### 講師のコメント

このグループスーパービジョンの最大の目標は、「実践力を生み出す」ことにあります。

臨床の現場で日々苦悩しながら実践している人にとっては、誰もが必要だと感じていることでしょう。ところが、個々の実践力としてイメージしていることをあげてもらおうと、意外と人によって異なることがわかります。

私は、実践力とは、ソーシャルワーカーの持っている知識や技術の量、あるいは引き出しの多さにあるとは思っていません。当然ですが、ハウツウ的な対応や問題解決能力を単に高めることだとも捉えていません。一番の実践力とは、ソーシャルワーカーが「自分自身を使えるか」にあります。ソーシャルワーカーとして経験を積んでいくと、クライアントや家族、そして取り巻く環境等を見て、判断をします。そこで見えているものを基にして、アセスメント、計画の立案や実行、モニタリングをすることになります。したがって、自分が見えている、聴けていることがベースになるのですが、実践力をつけるとは、まさにこの見る力、聴く力を身につけることで、自分を使えるようになることです。そして、今まで見えなかったものが見えるようになる、あるいは聴けなかったことが聴けるようになることが、支援を動かす大きな力になるのです。一つの事例とのかかわりのなかで、引っかかりや疑問をもつことから見えるようになるのですが、そこではみなさんがどのように感じるのか、すなわち（感性）が問われることになります。

研修では、最初の数回で文献を使って、実践力を高めるために必要な基礎の学びを確認します。続いて、個々が事例を提出し、他のメンバーと一緒に事例を検討することで問題への対応だけでなく、自分の課題を発見できるようになっていきます。そのためにはグループで対話できる関係を学び、実践できることが求められます。この学びによって、日ごろの実践においてもクライアントや家族だけでなく、チームのメンバーや地域の関係者とも対話をすることで、今まで見えなかったものを見るようになります。対人援助力を基礎から高めるスーパービジョンに、奮ってご参加ください。

### 教育部より

原則オンライン形式で開催いたします。ただし、講師と受講生の顔合わせの目的で、初回6/23（木）に対面集合開催（会場：都内）を検討中です。

## スーパーバイザー養成講座の概要とシラバス

### 講師 福山和女先生 (ルーテル学院大学名誉教授)

同志社大学卒。同大学院修士課程修了。カリフォルニア大学バークレイ校修士課程修了。公衆衛生学修士 (MPH)。Catholic University of America 大学院博士課程修了。社会福祉学博士 (DSW)。スーパービジョン・コンサルテーション研修では、全国各地で保健・医療・福祉の専門家たちの指導にあっている。

日程 (全8回)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			21日	19日		20日	18日	15日	20日	17日	21日	
時間・曜日	18:30 ~ 20:30、第3火曜日											
会場	Zoom											
対象者	実務経験2年以上のソーシャルワーカー											
定員	20名程度 ※申込数が定員の4割以下の場合、講座が中止になることもあります。											
費用	会員 25,000円 (税込) 非会員 37,000円 (税込)											
申込締切	2022/5/20 (金)											
申込方法	P9の「研修会の申込方法」を確認し、当協会ホームページよりお申し込みください。 なお、応募者多数の場合は、先着順とします。 ※ホームページにアクセスできず、お申し込みが難しい場合は、当協会事務局までご連絡ください。											
参考文献	1. 『ソーシャルワークのスーパービジョン』 ミネルヴァ書房 2. 『統合的短期的スーパービジョン』 金剛出版											
注意事項	欠席・遅刻・早退があると、認定医療ソーシャルワーカーのポイント証明書を発行できない場合があります。											

### 講師のコメント

この講座の名前が、スーパーバイザー養成講座となっている理由があります。講師としては、スーパービジョンでいうところのスーパーバイザーとしての責任を遂行する機能をもたないことが特徴です。受講者の方々の業務遂行能力を育成することに力点を置いています。受講者が「難しい」と叫び声を出しています。でも、その叫びは日ごろのソーシャルワーク業務活動の中で、疑問点・困難点を抱かざるをえない現場で働いているからです。決して、受講者が業務を軽視したり、手を抜いたりしているわけではありません。皆さんは、できる限りの努力をして業務をなさっています。この講座では、その専門性の高さをなんとか明らかにすること、その活動に妥当性を見つけるための話し合いをすることです。

同僚、部下の育成が問題となっていますが、スーパーバイザーである皆さんのやり方が問題なのではありません。むしろ、そのような現象が生じる社会の事象ですので、スーパービジョンでは、その事象をうまく活用して、ソーシャルワーク実践の意義を深めていきましょう。「さすがソーシャルワーカーさんですね」と言われたいものです。

スーパービジョンの話し合いでは、所属組織の課題も取り上げることになりますが、情報開示の件は十分に考慮して行います。秘密保持の原則を順守し、「アメリカでは…」というように、内容を加工して話し合います。これも、専門家に求められる能力ですのでそのトレーニングもいたします。

### Zoom 接続テスト

下記日時に Zoom の接続テストを行います。Zoom の利用に不安があり希望される受講生は、ご参加ください。なお、Zoom の利用経験があり希望されない場合は、参加不要です。

日時：2022/5/31 (火) 19時から 20分程度  
※詳細は改めてご案内します。

### 昨年度の受講生の声より

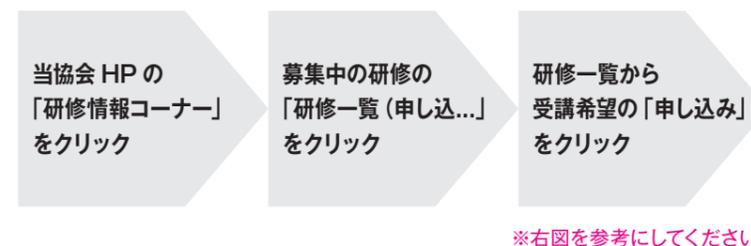
- ・ 何度か参加しているが、毎回新鮮で講師からの問いかけや話を聞き漏らすまいとメモを取り何度も見返している。現場に持ち帰って実践に繋がる具体的なことと、根本的にSWとして忘れてはならないことを教えていただける貴重な学びの場だと思う。
- ・ 自身の経験年数が少なく不安が大きかったが、色々教えてもらい、今までの研修の中で一番参加して良かった。
- ・ オンライン研修により、移動時間が省略でき参加しやすかった。

## 研修会の申込方法

全ての研修の申し込みは、当協会のホームページで受け付けます。以下の手順でお申し込みください。

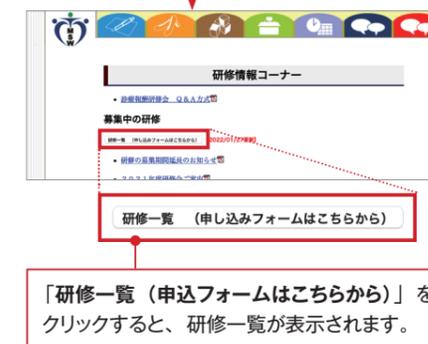
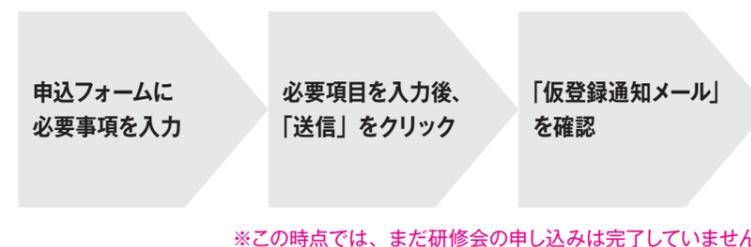
### Step1

#### 受講を希望する研修の申込フォームを表示する



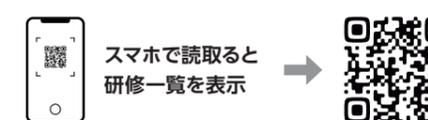
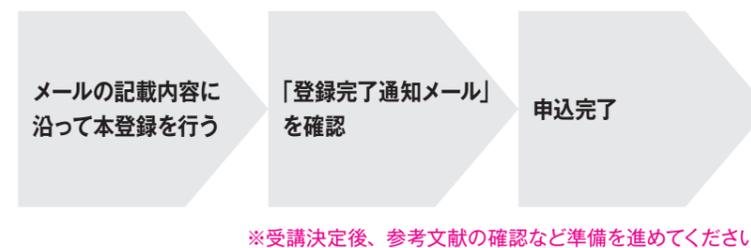
### Step2

#### 申込フォームに必要事項を入力し、仮登録をする



### Step3

#### 仮登録から、本登録をする



### 申し込みの注意点

- ・ 登録したメールアドレスにドメイン指定をしている方は、「tokyo-msw@tokyo-msw.com」のメールが届くように設定してください。
- ・ 申込フォームを入力したあと、翌日になっても仮登録メールが届かない場合には、必ず協会事務局に申し出てください。また、本登録をした後に、登録完了通知メールが届かない場合も、同様に申し出てください。
- ・ 研修の資料などは申し込み時に登録したメールアドレスにお送りします。携帯電話のメールアドレスでは容量オーバーで送信できないため、携帯電話のメールアドレス以外のメールアドレスで申し込みをしてください。